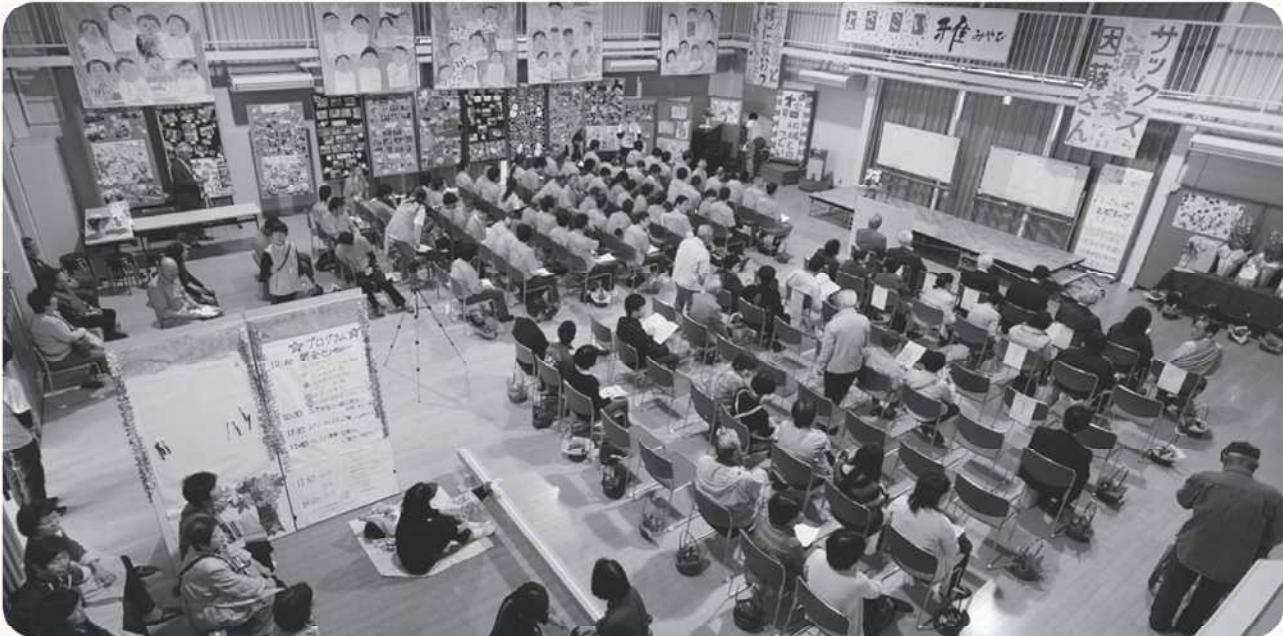


ポム・ド・パン

2013
January
vol. 10

- 障害者支援施設ウインドヒル 〒761-0450 香川県高松市三谷町3851番地 TEL 050(3734)6707 FAX 087(888)4278
- ケアホーム風見の家 〒761-0450 香川県高松市三谷町3890番地 TEL・FAX 087(888)2557

- 発行／社会福祉法人ポム・ド・パン
- 発行日／2013年1月31日



昨年10月28日(日)、第7回地域とのつどいを開催しました。当日は心配された天候も回復し、涼やかな秋風の下、盛大に開催することができました。今年も地域の方、ボランティアの方、関係者の方、また利用者ご家族の方など146家族、219名ものたくさんの方々にお集まり頂き、楽しい時間を共有することができました。

第26回全国自閉症者施設協議会千葉大会【11月15～16日】に参加して

- 第26回全国自閉症者施設協議会千葉大会が、平成24年11月15日～16日に開催されました。
- 『全国自閉症者施設協議会』に加盟している全国の施設から、自閉症療育を実践している施設職員・施設関係者・保護者が各分科会に分かれ、実践報告・情報交換等が活発におこなわれ、今後の支援のヒントを掴む機会となっていましたことを確信しました。
- 支援者は何ができるのか?「自閉症のある人」への視点で支援者自身が再確認する必要性を常に感じなければいけない。
- 利用者が安全で安心できる生活の維持に努めなければいけない。
- 支援者は「自閉症のある人」の成長を信じて、継続的で一貫した専門性を有する支援が不可欠である。
- また、「自閉症のある人」自身も「人として生きる力」「人の中で生きる力」を身につけることが不可欠である。
- そして、これこそ24時間体制で利用者の生活をサポートできる入所施設に求められている重要なファクターである。
- また、現場支援において、様々なケースに応じた相談内容や助言、療育を行っていく中で培われた専門的な支援のノウハウが「自閉症のある人」が暮らしやすい地域を構築していく上での根幹になるように……。
- そして、今大会において『自閉症総合援助センター』構想を提唱していきたいとの声が印象的でした。
- 高度で多岐にわたる支援技術とそれを裏打ちする専門性が支援者に求められていることは、たとえ『障害者自立支援法』が『障害者総合支援法』になっても、変わることのない最重要課題です。
- 次回第27回は、関西ブロックでの開催です。ぜひ、会場での感動をあなたも感じてみませんか?

管理者 松原 正子

ウインドヒルの主な活動報告

沖縄研修旅行



12月19日～21日、沖縄研修旅行に行ってきました。今回は初の2泊3日の研修旅行を計画し、琉球村や美ら海水族館、首里城を見学しました。今年の研修旅行はお父さん方の参加が多く、親子水入らず楽しい3日間を過ごしていました。

第35回ゆうあいピックかがわ卓球大会



12月22日、高松市総合体育館で行われた第35回ゆうあいピックかがわ卓球大会に参加しました。ウインドヒルでは毎週月曜日の午前中、卓球教室を行っています。日頃の練習の成果をいかんなく発揮し善戦しました。

クリスマス会



12月25日、クリスマス会を行いました。今年はカトリック桜町教会からレナト神父様にお越し頂き、『愛について』のお話しや絵本の読み聞かせをして頂きました。レクリエーションは毎月『健康まなびたいそう』を行って下さっている石川先生にお越し頂き、『ペットボトル爆弾ボン』などを行いました。また保護者も参加いただき、保護者会からユニット毎にクリスマスプレゼントを頂きました。利用者の方達は楽しいひと時を過ごしていました。

初 詣



1月9日、10日、11日、グループに分れて屋島寺や白鳥神社などに初詣に行きました。ただお寺や神社をお参りするだけでなく、社会の中でのルールやマナー、参拝の際の手順など、自らの体験を通して学んできました。利用者自らが公共の場に出て行き、自分の目で見て、耳で感じ、体験することを重ねることで人生の経験値となり豊かな生活へと繋がっていきます。

ポム・ド・パンの取り組み

土運び作業での経験値

● 一輪車で列になって土を運ぶ様子



初めは、一輪車のバランスを取ることができずによく一輪車を途中で倒していました。できる人が見本になり、それを見てまたできる人が増えていきます。個別の課題(プログラム)だけでなく、一緒に仕事をする(集団活動の)中で蓄積する経験値があります。

● 斜面の際で土を流す様子



手先や腕だけでは、扱いにくい一輪車を、日々の経験を重ねることにより、みごと足腰(体)を活かして操作できるようになりました。

● 手元で一輪車を操作している様子



一輪車を扱う手つきは、その場で職員が説明して繰り返しの体験の中で身に付いてきたものです。

一度ハンドルを持った手を返して一輪車を操作することができるようになりました。

ポム・ド・パンの理念

障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。

障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。

障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。

障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。

第7回 地域のつどい



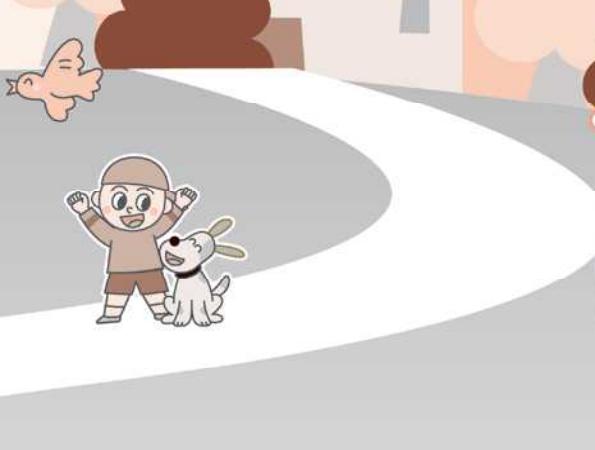
今回は『三木先生と歌おう with 水上さん』や国分寺町で活動しているよさこい演舞連『雅』さんのよさこい踊りなどで、当日ご参加頂いた皆さま全員でおおいに盛り上がりました。また屋外では飴玉すくいコーナーやシャボン玉コーナーを設置し、ちびっこたちにも大反響でした。



写真（左）よさこい演舞連『雅』さんの演舞、写真（右）三木先生と歌おう with 水上さん。音楽に合わせ歌い、踊り、会場全体でハッスルしました。



ご参加頂きありがとうございました



おパンブース



昨年に引き続きワインブースを設置し自閉症をたくさんの方々に理解してもらおうと努めました。ウインドヒルは香川県下で唯一自閉症に特化した施設であり、そのためウインドヒルでの生活の中ではユニークな取り組みが目白押しです。ワインブースではそのような取り組みをパネルを使い解り易く説明しました。自閉症に特化した施設として今後も啓発活動に力を入れていきたいと思っています。

食バザー



昼食風景



坂口さんの「手作り木のおもちゃ」



てらきちゃんかきおろし



うわさん似顔絵



たくさんの方々にご協力、

職員コーナー

ウインドヒルで栄養士として仕事をさせて頂くようになってから、早いもので7年半が過ぎました。障害者施設に勤めることが初めてだったこともあり、当初は戸惑うこともありましたが、皆さんにご指導、ご協力をいただきながらここまでやってこられました。

利用者の皆さんも、苦手なものが食べられるようになったり、食事のマナーを身につけたりと、日々成長されており、笑顔で食事をされている様子は、私の励みとなっています。

「食べること」は体や健康を作るとても重要な役割を担っています。ご家族や他の職員と連携を図り、利用者の成人病の予防に努めながらも、安全で、おいしく、皆さんに満足していただけるような食事の提供を、調理員と一緒に継続していきたいと思います。

堀 仁美

研修報告

- 平成24年10月～12月 平成24年度サービス管理責任者研修会 主催:香川県
- 平成24年11月15日、16日 第26回全国自閉症者施設協議会千葉大会 主催:全国自閉症者施設協議会 開催地:千葉県
- 平成24年12月13日、14日 平成24年度 九州・山口自閉症施設連絡協議会職員研修会 担当施設:社会福祉法人三氣の里 開催地:熊本県



全国自閉症者施設協議会とは

全国自閉症者施設協議会とは、『自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加のために実践と研究を推進し、さらに、これに参画するものの研鑽と相互交流を促進することを目的』として、全国の自閉症者施設(自称)の協議会です。

全国自閉症者施設協議会ホームページより抜粋

第26回全国自閉症者施設協議会千葉大会に参加して

生活主任：鈴木 克幸

大会2日目の公開ケース検討会では参加者全員で発表施設のひとつの事例をもとにパズセッション（複数でグループになり、進行を進めていく、様々な意見を出し合まとめ発表するもの）を行いました。

ケースの内容は児童期から入所した経緯、そこから担当職員がどのようにチーム支援を行ってき、また入所期間が30年にも及ぶ利用者のケースであったため、担当者も入所当初から中期、現在と変わっており、3名の職員から順を追って説明がありました。利用者の問題行動に対する考え方（捉え方）や支援の手法については、いくつか疑問を感じる内容もありましたが、1つの事例に対して全員参加型で意見（想い）を出し合い、参加者間での考え方や支援方法の差を認識し合うことに意義があると感じました。



ウインドヒルで開催した研修会

- 11月6日 主催:香川県知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会研修会を地域交流棟で開催しました。
- 10月10日、31日 高松市立保育所の障害児担当保育士の研修会を行いました。



高松市から依頼を受け、今年で4回目の研修会です。

保育現場において、自閉症の障害特性を理解し、将来、どんな障害があっても、人として社会に喜んで受け入れられる人に成長させてあげたい。そのためには、乳幼児期に押さえていなければいけないポイントは何であるか。また、悩み多い保護者さんとの関わり方、メンタル面のサポート等について研修しました。

| 第2回全施連中国・四国・近畿・東海地区ブロック会議

12月2日、3日、全国知的障害者施設家族会連合会高知県支部主催のもと、第2回全施連中国・四国・近畿・東海地区ブロック会議が高知県で開催され、ウインドヒルの保護者の方も参加されました。



全施連(全国知的障害者施設家族会連合会)とは、全国35都道県約千施設(5万人)の知的障害者施設を利用する者の家族が、障害者自立支援法の成立を契機として、同法では私たち家族である知的障害者が不幸になるとの危機感から、自然発的にできた会であります。政治団体でもなく、圧力団体でもなく、ただ、ただ障害者と家族のしあわせを望んでいる組織です。

全国知的障害者施設家族会ホームページより抜粋

| 利用者がボランティア活動を行っています

10月31日、地元三谷町の三渓小学校に職員とウインドヒルの利用者2名、ケアホーム風見の家の利用者3名が清掃活動のボランティアに参加しました。これは毎月1回行っているボランティア活動です。たとえ障害があっても「人の役に立ちたい!」という想いから三渓小学校へボランティア活動に参加するようになりました。障害があってもそれぞれの能力をフルに活用し、人のために、地域のために働くことができます。

私たちウインドヒルは、ただ福祉を施されるだけの施設ではなく、地域と共に助け合い、共に歩んでいける施設を目指しています。

～暖かなお気持ち～

10月6日



地元、自治会の方に獅子舞を踊って頂きました。

10月11日

ボランティアの瀬谷さんが稻刈りを手伝って下さいました。

11月26日

地元の方からもち米を頂きおはぎを作りました。

ありがとうございました

11月27日



三和電業株式会社の職員より寄付金を頂きました。

11月



株式会社橋輝さまより作業用の手袋を頂きました。

1月26日

香川県立香川丸亀養護学校親の会さまより寄付を頂きました。

今後ともよろしくお願いします

ウインドヒル「地域交流棟」を利用しませんか

100名程度の研修会などに使用できます。スポーツにも…。卓球台を備えています。ダンス、舞踏や音楽練習などに使用できます。利用料は無料。エアコン利用の時のみ、光熱費として1時間につき500円必要となります。

問合先：障害者支援施設ウインドヒル TEL：087-888-4277 050-3734-6707



社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページをリニューアルしました！！

当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新していますので是非ご覧ください。

スマートホンでは右のQRコードから読み取れます。

アドレス：<http://www.pomme-de-pin.or.jp/>



社会福祉法人ポム・ド・パン

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

(敬称略・順不同)

◆個人会員 平成24年度

羽間由紀子 川南 行生 松岡 正博 藤沢由美子

◆団体会員 平成24年度

ツツミ医院

平成24年9月1日～平成24年12月末日現在、以上の方々にご入会頂きました。

平成25年1月1日以降にご入会の方々のお名前は、次号の会報に掲載させて頂きます。

本当にありがとうございました。

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」とケアホーム「風見の家」をサポートしています。

今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にした理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、多くの方々のご支援が是非とも必要なのです。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき、「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

年会費

個人会員 一口 3,000円 団体会員 一口 10,000円

ご入金方法

郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

保護者会コーナー

「心にこつけた事」

8月28日(日)毎年恒例の行事、地域とのつどいの日です。前日の準備までは晴天続きだったのが天気予報では雨…でも、心配していた雨も一時降つただけでした。

朝から交流棟の中では、地元の方々や諸先生、来賓をお迎えし開会セレモニーが。利用者は、三木先生と水上さんによるレクリエーションで教わった数々の歌を発表。よさこい踊りは迫力満点の音楽と踊りで、利用者は笑顔と元気いっぱいのパワーをもらい、私達保護者も子どもたちに負けない位の元気をもらった気がします。会場外の各テントでは色々なバザーが。

三野 秀子

お願い

現在ウインドヒルでは利用者の作業が減少してきています。利用者の方たちはそれぞれの能力を活かし、様々なスキルを身に付けてきました。軽作業や農作業、清掃活動など利用者に出来そうなことがあればご一報ください。

編集後記

新たに平成25年が始まりはや1ヶ月が経ちました。今年の冬は予報通り厳しい寒さとなり、ウインドヒルでは夜間早朝と敷地内の門扉が凍ってしまい開かなくなってしまいます。

ウインドヒルでは毎日1時間ほど自然に恵まれた敷地内をウォーキングしています。敷地内とはいって、急な登り勾配があったり、土の階段があったりと、そのコースは変化に富んでいます。毎日のウォーキングを通して日頃から病原菌に負けない体づくりに努めています。開所当初はよく体調を崩していた利用者の方たちも今では風邪もひかないようになってきました。寒さに負けず今年も利用者、職員一同頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



メリー♀(年齢非公開)
2006年12月にウインドヒルに
きました。



モモ♀
2006年1月生まれ

「ポム・ド・パン」とはフランス語で松ぼっくりという意味です。「ウインドヒル」の建つ丘には、時折、松ぼっくりが転がっています。松ぼっくりは、松の木の生命である種子が住んでいるお家です。ここで種子が大切に育まれ、また、次の命を生み出していく。一年中緑の葉をつけ、砂地でも荒地でもしっかりと根をはり、大きく枝を広げている松。その生命をしっかりと包み込んでいる松ぼっくり。「社会福祉法人ポム・ド・パン」も強く・たくましく・大きく、そして、小さな一つひとつの生命を育む暖かな場所なのです。